

2013年度3年次編入学試験「実技試験」「小論文」等の採点基準

学科・専攻	実技試験(芸術学科は小論文)	面接		
	狙い・意図、採点のポイント	狙い・意図、採点のポイント	小論文利用	実技試験作品利用
日本画		《作品提出:30号以上2点、その他ポートフォリオなど》 実技作品を踏まえ、制作意図を語らせるとともに、提出作品と多摩美術大学への志望理由・小論文を参考に総合的に判断した。		
油画		提出した作品が当該学年に相当する技術力・表現力をもちえているか。大学編入語のビジョンはあるか。普段どのような意図で制作しているか、また美術についてどのようなことを考えているか。本学を選んだ理由が明確かどうか等を総合的に判断して採点を行った。	●	
版画		持参した作品を最重視し、かつ政策意欲を確認するための面談を行った。編入志望理由、動機は勿論、今後の方向についての意識を判断した。(3年時編入は本学に於ける1,2年時の基礎技術の習得の面で不足している場合が多く、その先の弱点をカバーできる意欲を確認する必要がある)	●	
彫刻		・本学への進学目的が明確か。 ・具体的な志望研究領域があるか。 ・将来への展望が明確か。 ・自分の意思を明確に述べられるか。 ・興味のある作家はいるか。 ・本学科の課題に対し適応力があるか。	●	
工芸		なぜ工芸学科を選んだのか、そして何を学びたいのか。将来の展望などについて熱意と説得力のある答えを望む。 本人の制作についての考え方や取り組み方を再認識したい。 これまで学んだ専門分野での達成度と、さらに今後の本学での専門授業に対応する力をみるため、これまでの研鑽野蓄積がうかがえるファイルや資料の充実を望む。 また、人物から受ける熱意などもあわせて判断する。	●	
グラフィックデザイン	鉛筆デッサン ・理解力 問題の把握、理解が正しいか ・伝達力 問題の目的や状況を正確に表現しているか ・発想力 問題を造形化するアイデアが優れているか ・描写力 構図、形、動く、光、量感などを描写することに必要な技術が優れているか ・個性 デッサンからうかがえる品格、感性に優れているか ・3年次に相当する能力を有するか 色彩構成 ・理解力 問題の把握、理解が正しいか ・発想力 問題を造形化するアイデアが優れているか ・造形力 アイデアを明快でムダのない色彩と構成によって、美しく整理できているか ・完成度 手仕事としての仕上げが優れているか ・個性 品格、感性に優れているか ・3年次に相当する能力を有するか	・編入学志望理由が明確であるか ・授業への取り組みの意欲があるか ・持参作品による描写力、色彩・構成などの基礎的造形力の評価(持参作品を趣旨する傾向にあります)	●	×
プロダクトデザイン	・理解力=問題の把握、理解が適切か ・発想力=アイデアが優れているか ・独創性=他にないアイデアか ・実現力=アイデア具体化方法の知識があるか ・表現力=アイデアが伝わる表現か ・3年次に相当する能力を有するか	・3年次相当の実技力があるか ・本専攻の内容を理解しているか ・本専攻への入学意図は明確か ・自分の意見を述べられるか ・学習意欲が感じられるか	×	×
テキスタイルデザイン	テキスタイルデザインを学ぶために必要な色彩感覚とデザイン力を問うことをねらいとして出題した。また、色彩表現に留意した上で、独自の縞模様美しく実現できているかを採点のポイントとした。	受験者が本専攻の基礎課程(1,2年次)と同等の教育課程を修得しているか、また、3年次からの授業についていけるかどうかを持参作品によって審査した。さらに、口頭および記述によって自分の考えやテキスタイルデザインを学ぶための熱意を明確に説明できるかも評価の対象とし、採点のポイントとした。その際に共通教育の小論文を参考にした。	●	×
情報デザイン:メディア芸術コース		面接試験のねらいは以下の能力をみることにある。採点のポイントはこれらを総合して判断する。 ・面接時の態度、言葉遣いをふくめたコミュニケーション力。 ・提出作品の内容。 ・総合的な成績。 ・提出作品の内容を限られた時間内にうまく伝えられるプレゼンテーション力。 ・編入を希望する動機と学科編入後に実現したいことを伝える熱意。		
情報デザイン:情報デザインコース		作品またはポートフォリオのプレゼンテーションや質疑応答を通じて、編入学の意図や目標が明確かどうか、デザインに関する興味や基礎的な知識があるか、基本的な表現技術が身に付いているか、学科・コースの教育内容を理解しているか、制作のためのコンピュータのスキルがあるかなどを問い、総合的に評価しました。小論文は質問内容の参考としました。	●	
芸術	論述の着眼点が出題に対して的確であるか、論旨は明確で説得力があるか、卒業論文を書き上げるにふさわしい能力があるかという点が判断基準となります。常識的にまとめあげた文章より、テーマに踏み込んだ独自の発想を期待しています。	芸術学科で何を研究したいのか、受験生の知的能力や知的関心がその研究をすすめていくのに十分か、芸術の理論や歴史に関する基礎知識は持っているか、卒業論文を書き上げるのに十分な能力を有するか、などを判断します。	×	×

全学科共通小論文

小論文の出題については、全般的に文章の組み立て方、論述の展開、要旨の明確さ等を通じて、自己の思考性の確かさを試すことをねらいとしている。また、美術全般への理解、興味関心の度合いを知ることも併せて目的として出題している。

三年次編入では、既に一定の大学教育を受けていることを鑑み、より専門性の高い出題を心掛けている。また、受験生の本学への就学意欲と研究課題が明確となるような問題を出題している。